

JAPAN CULTURAL EXPO 20

金沢能楽美術館企画展

海底の能楽

うなぎこのうがく



2026
4.3(金) - 6.7(日)

開館時間 / 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 / 毎週月曜日(休日の場合はその翌平日)
料 金 / 一般・大学生 310円、65歳以上 210円、
高校生以下 無料、団体(20名様以上) 260円
主 催 / 金沢能楽美術館((公財)金沢芸術創造財団)
後 援 / 北国新聞社・NHK金沢放送局・MRO北陸放送・
テレビ金沢・金沢ケーブル・エフエム石川・
ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオなお

Kanazawa Noh Museum
金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 TEL(076)220-2790 FAX(076)220-2791
金沢駅兼六園口(東口)バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊(アトリオ前)」下車
<https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

上から龍鳳(鱗) 現代・21世紀/龍鳳(鱗) 現代・21世紀
紅地雲龍に龍丸文舞衣 明治時代・19～20世紀 全て金沢能楽美術館蔵

金沢能楽美術館企画展 2026 4.3(金) - 6.7(日)

海底の能楽

うなぎこのうがく

江戸時代、加賀百万石の大名前田家のもと高度な武家文化が花開いた金沢。

なかでも能楽は武士の嗜みとして手厚く保護育成されました。将軍に倣い、五代藩主前田綱紀が宝生流の家元を指南役としたことから、加賀では能五流のひとつ宝生流が根付き栄えます。

明治維新による幕藩体制の終焉は一時的衰退をもたらしましたが、加賀では佐野吉之助をはじめとする能楽師と愛好者らの尽力により復興、のちに「加賀宝生」と称されるほど広く浸透しました。

当館は加賀宝生に伝わった能道具をコレクションの母体とし、以来、能楽に関する貴重な資料の収集・保存・展示を重ねています。

この度は海底をテーマに能面・能装束を展示いたします。水底にまつわる物語と玲瓏な世界をお楽しみいただけましたら幸いです。



白地松皮裏取錦形立涌文様綴履箱
明治時代・19～20世紀
金沢能楽美術館蔵

しゃうたい 写謄の会 要予約 定員30名

当日の午後には催される定例能(於石川県立能楽堂)について、能楽師の解説の後、宝生流謡本の流麗な文字をなぞります。どうぞお気軽にご参加ください。

時間	各日程の10:15～11:15	日程	曲目	講師(シテ方宝生流)
場所	金沢能楽美術館 3階研修室	4月5日(日)	鉢木・国栖	木谷 哲也 師
料金	各回500円+観覧料(一般310円)	5月3日(日・祝)	弓八幡・杜若	佐野 弘宜 師
持物	筆ペン	6月7日(日)	草紙洗・鶴飼	藪 克徳 師
申込	金沢能楽美術館(TEL 076-220-2790)			



金沢ミュージアム+

どこにいてもお手軽に金沢市の収蔵品を鑑賞できるウェブサイト。様々な文化施設が参加しており、AR技術を使用した「立体で見る」、高精細画像の「拡大して見る」といったスペシャルコンテンツも公開中!

Kanazawa Noh Museum
金沢能楽美術館



〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 TEL(076)220-2790 FAX(076)220-2791

金沢能楽美術館 検索 <https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

金沢駅兼六園口(東口)バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊(アトリオ前)」下車

